

仏像の盗難についての次のA・Bの文章を読み、後の問に答えなさい。

A

今年四月に長野市の善光寺の本堂に置かれている賓頭盧尊者びんずる坐像（通称おびんずるさん）が盗まれてしまいました。患部と同じ所をなでると病気が治るとされ、多くの人に親しまれている尊像です。犯人はすぐには捕まりお像は戻ってきており、防犯監視体制は強化されたものの、基本的に今まで通り触れる状況のままに置かれています。またつい先日、二〇一二年に窃盗団によって盗まれた長崎県対馬のお寺の仏像が、韓国のお寺から返還されることが正式に決まりました。

この二つの事例は、まさに仏像の盗難事件です。こうしたことは今に始まったことではなく、記録に出る事例は奈良時代にまで遡ります。古くは、金属製の仏像を溶かして銅や金を入手したり、あるいは近代に入ってから文化財的、美術品的、骨董的価値に注目しての窃盗です。いつの時代にも不届き者はいたようですが、最近は特に地域のお寺やお堂に置かれる、いわば「村の仏像」が狙われています。

B

いま各地で発生している仏像の盗難被害の対象は、（中略）地域の人々が守り伝え、心の拠り所として維持してきた身近な寺や小堂に祀られた仏像なのです。時代も材質もさまざまで、未調査で文化財的価値を見出されないまま、写真の一枚もないような事例も多数含まれます。

なぜそうした仏像が盗まれるのでしょうか。窃盗犯の目的は、換金です。盗まれた仏像は様々な経路から古物市場に供給され、商品として多くは国内で流通しています。この二十年ほどの間にインターネット上で商品を売買するオークションサイトが劇的に発達し、仏像や古美術品を購入する手段が平易化して誰でも気軽に入手できるようになっていて、需要の層が拡大しています。そうした環境と連動して、短絡的な換金目的の犯行に及ぶ窃盗犯が出現しているのです。（中略）

そして仏像盗難被害拡大のもう一つの大きな要因は、地域住民の高齢化と人口減少という現代社会が抱える構造的な問題です。地域住民により維持されてきた無住寺院※やお堂が、コミュニティの縮小により管理の担い手が不足して、犯罪の抑止力が大きく低下してしまっているのです。そうした隙を突いて卑劣な犯罪者が跋扈ばつこしており、盗む側と盗まれる側の状況が不幸な一致をできてしまっているのが現状です。今後状況はさらに深刻化するものと想定されます。

（大河内智之「盗まれる仏像―その背景と現状―」〔奈良大学文化財学講座「美術資料から見る地域史」〕『月刊大和路ならら』二八七、二〇一二年〕より抜粋）

※賓頭盧尊者びんずる 釈迦の弟子の一人。日本では除病に効き目があると信仰されている。

※無住寺院 御住職や管理する人が住んでいないお寺のこと。

問一 地域の仏像が盗まれる要因として、Bの執筆者は二つのことを挙げています。それはなんですか、二〇〇字以内で答えなさい。

問二 あなたにとって仏像とはどういうものですか。信仰の対象ですか、美術品ですか。これまでの経験知識を元に四〇〇字程度で論述しなさい。